



昨年は私にとって大きな意味を持つ年となった。今まで温めてきたものというか、自分の人生においてそうしなければ坊主になった意味がないというようなものが、大げさに言えばわき起こってきたのだ。それは一口に言えば、「寺の活性化」をしたいということだった。生き生きとした本来の寺の姿に戻したい、この思い一つだった。今までにも様々に試み、自分なりに努力はしてきたし、それなりの手ごたえも感じてはいたが、思いの輪の広がりには限界を感じてきていたのだ。

そんな折、インターネットに出会った。それは私にとって周囲の人たちからの大いなる刺激があったことが、大きかった。60を過ぎてパソコンを習い始めるきっかけを与えてくれた人、新聞(寺報)・ホームページを作るきっかけを与えてくれた人、その一つひとつのご縁が、今につながっていることを改めて実感している。インターネットはあくまで手段ではあるが、大きな私の力となって今、働いている。

日常のささやかな一つひとつのご縁が、私の人生に大きな意味を持たせてくれているのだ。

親鸞聖人の周りに人が集まり、御同朋、御同行として、伴にその教えに耳を傾け、今ある自分に喜び合えるような、そんな関係が築かれることを夢見て、今年も様々なことに取り組んでいきたいと思っている。本堂改修工事も、聞法道場としての大切な場であらんことが願われ、多くの方の力が結集され完成できたものだと確信している。その意味を深く受け止め、さらなる責任と実践あることを自らに課し、命あらん限り、住職としての歩みを続けていきたいと思っている。

新年に思う

光受寺責任役員

Y・T

新年明けましておめでとうございます。

昨年は一年を通じ大変な年でした。特に記憶に残るのは東北の大震災。十メートルを超す大津波、原発の事故と一万九千人余り 行方不明者を含むの大切な命を失いました。亡くなられた皆さんに思いをいたし、心からおくやみを申しあげます。また住宅その他多くの財産等のすべてを亡くされた方々にお見舞いを申し上げます。まだ復興は始まったばかりで、これからが大変です。日夜御苦労されている方々にも心が痛みます。

さて私たちが心の拠り所としている光受寺の大改修工事進み、昨年の暮れには工事途中ではありましたが、なんとか報恩講を勤めることができました。これも多額のご寄付をいただきました門信徒の皆様、縁者の皆様のお陰があつたこと、心より御礼を申し上げます。

命は自分だけのものではありません。また生きていくにも自分だけで生きていくものではありません。目に見えない大きな力の働きによるところが多いいと思います。しかし、年間3万人以上の自殺者が出る今日。真剣に命の大切さと向き合っていかなければならないと思います。

新しい年には、命の大切さが実感できるような年にしたいと私自身は考えています。

軽率でした。後悔しています。住職の光受寺通信への投稿依頼を承諾したことを。最も不得手な作業に苦勞しています。

昨年の東日本大震災と、それに伴う原子力発電所の事故の被害は、深刻な状況が続いており、文頭で新年の祝辞を述べることに躊躇します。被災された方々が少しでも希望が持てる年になればと願っています。

青春というサムエルウルマン作の詩がありません。

心の詩

本町 O・M

青春とは人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いが来る。人は自信と共に若く、恐怖と共に老いる。希望ある限り若く、失望と共に老い朽ちる」

これは青春の一部分ですが、この詩を二十余年前に知り、強い感銘を受けました。この二十一年間は、高齢化が進み、格差が広がり、経済は停滞したまま、世の中は閉塞感であふれています。若者も老人も希望の光を見いだせないうえです。私もそれだけ年を重ね高齢化と呼ばれる年齢になりました。

皮膚のしわは増え、体力、気力も衰えましたが、命ある限り青春の詩を心に刻み続けたいと思っております。

改修工事状況

その8



本堂正面・新調の建具が思ったより、古い建物に馴染んでいて、重々しささえ感じられます。



うっそ〜

例年は23月に咲く花が…
寒あやめ。きれいですよ。

どこにあるの？

棟梁の力作？正面のヒノキは特別な環境で生育させたもの。なかなか手に入りにくいものだそうで、棟梁が保存していたもの。見てもホントきれいです。

鬼瓦など一部先代の門のものを再利用しています。門扉、袖塀は来年の工事になりそうです。あきらめムードです。

寺標 眞宗大谷派 柴間山 光受寺「台座及び石置階段は新調。有志による御寄附です。」



登り口に階段を付けました。雪の日などはこの階段をご利用ください。

車いすのままでも、入れるように配慮してあります。

梅情報

一月からはインターネット(ホームページ)にて、こまめに紹介いたします。ぜひ見てください。

Koujyuji.comで検索



すっかり葉を落とし、今が樹形を楽しむ良い時期です。

赤い花の枝は優しくゆったりとしていて優雅です。白い花の枝は勢いがよく、直線的で優雅さにはやや欠けます。

枝垂れ梅サークル 毎月第2土曜7時~8時半
光受寺にて 会費なし